

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム「笑がお」

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「笑がお」を大事に、最後まで地域と共に、その方らしい暮らしを提供している。日々のチームケアを大切に、月2回の担当者会議では、全職員出席し利用者の情報の共有、支援方法をチームで考え、ケアの統一を行い実践している	理念である「笑がお」を大事に、最後まで地域と共に、その方らしい暮らしを提供している。日々のチームケアを大切に、月2回の担当者会議では、全職員出席し利用者の情報の共有、支援方法をチームで考え、ケアの統一を行い実践している	管理者の事業所設立理念「笑がお」がそのまま事業所名となっており、利用者と職員が地域の一人として生活している。全職員が利用者のプランを所持し、月2回の担当者会議には職員全員が出席し、理念に沿ったケアの統一を図ると共に意識確認も行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	職員一人一人が「笑がお」は地域の一人であるという理解が出来ており、顔を合わせ日常のあいさつ、「笑がお」の回覧版、ゴミ当番に加え、運転の気遣い、道端のゴミ拾いなど地域の自治会とも協働して内外での活動と交流の場がある。	職員一人一人が「笑がお」は地域の一人であるという理解が出来ており、顔を合わせ日常のあいさつ、「笑がお」の回覧版、ゴミ当番に加え、運転の気遣い、道端のゴミ拾いなど地域の自治会とも協働して内外での活動と交流の場がある。	自治会に加入している。毎日リハビリを兼ねた散歩に出かけ顔見知りの関係ができています。地区の運動会、文化祭、お祭り等に参加し子供神輿が立寄り、運動会には席を提供してくれたり自治会が理解し迎え入れてくれる。地域のボランティア「わの会」と交流し馴染みの関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた認知症講座の開催、運営推進会議での認知症の問題提起、地域に向けての回覧板による認知症理解、地域のボランティアの積極的な受け入れなど、可能な限り地域の一人として必要な役割を果たしている	地域に向けた認知症講座の開催、運営推進会議での認知症の問題提起、地域に向けての回覧板による認知症理解、地域のボランティアの積極的な受け入れなど、可能な限り地域の一人として必要な役割を果たしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況やサービスの内容(外部評価・インシデント・苦情報告・ボランティア・包括支援センターからの問題提起・外部研修など)多角的に話し合い地域からの意見を取り入れ、「笑がお」全体で取り組んでサービス向上に反映している。	活動状況やサービスの内容(外部評価・インシデント・苦情報告・ボランティア・包括支援センターからの問題提起・外部研修など)多角的に話し合い地域からの意見を取り入れ、「笑がお」全体で取り組んでサービス向上に反映している。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、自治会長はじめ地区役員、地区民生委員、ボランティアの代表、利用者や家族等参加者多数で日頃の事業所サービス提供情報を提示し、自治会や参加者からの提案を受けたり、意見交換を行っている。地域との理解をしあえる関係づくりも楽ができてきた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	甲府市介護サービス連絡協議会の委員、甲府市ボランティア養成の実習、甲府市笑顔ふれあいボランティアの受け入れなど積極的に取り組み、長年で培った市との信頼関係から、サービス内容は何でも相談できる関係にある	甲府市介護サービス連絡協議会の委員、甲府市ボランティア養成の実習、甲府市笑顔ふれあいボランティアの受け入れなど積極的に取り組み、長年で培った市との信頼関係から、サービス内容は何でも相談できる関係にある	市には運営推進会議の議事録を届けて、事業所の情報を伝えている。日頃から信頼関係が築けており、連携がとれている。実地指導についてケアマネが相談する事や看取りに対して相談をする事や市からの相談を受けることもある。また、研修への参加や受け入れ、実習生の受け入れ等している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	他職種で組織した身体拘束委員会が中心にマニュアルの立案や職員への周知徹底を図っている。カンファレンスや勉強会においても、身体拘束をしないケアの観点から対応策など話し合い、家族とともに本人にとって最善の方法は何か議論している	他職種で組織した身体拘束委員会が中心にマニュアルの立案や職員への周知徹底を図っている。カンファレンスや勉強会においても、身体拘束をしないケアの観点から対応策など話し合い、家族とともに本人にとって最善の方法は何か議論している	グループホーム協会で行う身体拘束の研修や権利擁護の研修にも参加し、ヒヤリハットやインシデントに対する助言なども受けている。職員はマニュアルをミーティングで確認し、身体拘束をしないケアをモットーに玄関の施錠をせず、利用者が自由に戸外に出掛けるのを職員は寄り添う等、その時々に合わせて対応を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてマニュアルを基に理念・方針を明確にしており、カンファレンスや勉強会を通して職員間で共有、チームで取り組めるよう指針を提示している。柔軟な職員配置を行い、個別ケアを推進している。勉強会では倫理観を高める学びをしている	虐待についてマニュアルを基に理念・方針を明確にしており、カンファレンスや勉強会を通して職員間で共有、チームで取り組めるよう指針を提示している。柔軟な職員配置を行い、個別ケアを推進している。勉強会では倫理観を高める学びをしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修会を通して職員間で学びを深めている。運営推進会議では北西包括支援センターの社会福祉士と意見交換をし、日頃から利用者のニーズを理解し、権利擁護支援の必要性や支援内容を検討し利用者へ活用している	施設内外の研修会を通して職員間で学びを深めている。運営推進会議では北西包括支援センターの社会福祉士と意見交換をし、日頃から利用者のニーズを理解し、権利擁護支援の必要性や支援内容を検討し利用者へ活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談では館内を案内して、雰囲気を感じていただき理念・方針をお伝えしている。その後も不安や疑問点について確認をしながら、話し合いや検討を重ね理解、納得を得られての契約となっている。解約や改定等の際も同様である	入居の相談では館内を案内して、雰囲気を感じていただき理念・方針をお伝えしている。その後も不安や疑問点について確認をしながら、話し合いや検討を重ね理解、納得を得られての契約となっている。解約や改定等の際も同様である		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム「笑がお」

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通して様々なテーマを基に、家族や地域の方との意見交換を活発に行う。また毎月の手紙や日々のメールでのやり取り、面会の際には意見や要望を確認し、これまでたくさんのアイデアを基にホームが成り立っている	運営推進会議を通して様々なテーマを基に、家族や地域の方との意見交換を活発に行う。また毎月の手紙や日々のメールでのやり取り、面会の際には意見や要望を確認し、これまでたくさんのアイデアを基にホームが成り立っている	家族から健康管理や職員に対する動向について、また、行事について等の意見が出された。このことに対して意見交換を行い、事業所運営に生かしてきた。意見の中で筋力アップのための「100歳体操」を実施してはと提案があった。これに対しては、取り入れて行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回開催されるカンファレンスに必ず出席し議題を投げかけ、職員の意見や提案をもらいながら運営に反映している。年2回の面接を通して職員の心身の把握と共に、目標の確認や意見交換をしながら共にホームづくりをしている	月2回開催されるカンファレンスに必ず出席し議題を投げかけ、職員の意見や提案をもらいながら運営に反映している。年2回の面接を通して職員の心身の把握と共に、目標の確認や意見交換をしながら共にホームづくりをしている	職員には年2回管理者との面接がある。個人目標を立てる、能力評価シートの記載を実施し、それを踏まえて意見を聞くようにし、出された意見で事業所内の床の張り替えを実施したり、非常用警報器のボタンの誤作動を予防するためのアイデアを取り入れたっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス能力シートに沿って、年2回面接を行い向上心を持って働く事ができる様、目標を明確化し達成できるよう導いている。業務内容、勤務状況を確認して、個々の努力や実践に対して評価しながら、やりがいを持って働けるよう努めている	キャリアパス能力シートに沿って、年2回面接を行い向上心を持って働く事ができる様、目標を明確化し達成できるよう導いている。業務内容、勤務状況を確認して、個々の努力や実践に対して評価しながら、やりがいを持って働けるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力を把握し、年2回の定期面接や随時の面接の際に本人の目的意識を確認しながら、希望に沿って資格取得研修を受ける機会を設けている。法人内の研修は外部講師をお願いし、職員間でも好評である	職員一人一人の能力を把握し、年2回の定期面接や随時の面接の際に本人の目的意識を確認しながら、希望に沿って資格取得研修を受ける機会を設けている。法人内の研修は外部講師をお願いし、職員間でも好評である		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会内での交流会や他施設見学、地域事業所の交流や勉強会など対外的な研修に参加する機会が多く交流している。全職員を対象として参加を促し、それらがサービス向上になるという根拠を、各自が理解できるようになっている	グループホーム協会内での交流会や他施設見学、地域事業所の交流や勉強会など対外的な研修に参加する機会が多く交流している。全職員を対象として参加を促し、それらがサービス向上になるという根拠を、各自が理解できるようになっている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の基本情報となる性格、生活状況、家族状況、病歴、ご本人や家族の思い、これから望む暮らしとは何かをチームで共有し、本人に寄り添うことから始め、要望等傾聴しながら行動を共にし、信頼関係の構築を目指したチームケアを行っている	利用者の基本情報となる性格、生活状況、家族状況、病歴、ご本人や家族の思い、これから望む暮らしとは何かをチームで共有し、本人に寄り添うことから始め、要望等傾聴しながら行動を共にし、信頼関係の構築を目指したチームケアを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、ご家族のこれまでの思いや困っていること、また要望やこれからご家族が抱える不安等ご家族の状況を把握しながら、丁寧に話し合いを重ね、共にチームの一員として利用者を支えていける関係性の構築を目指している	入居前より、ご家族のこれまでの思いや困っていること、また要望やこれからご家族が抱える不安等ご家族の状況を把握しながら、丁寧に話し合いを重ね、共にチームの一員として利用者を支えていける関係性の構築を目指している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の能力をかんがみて、今後の視点も考えた中で本人と家族にとって必要なサービスが、今であれば現状で一番望ましいサービスを提供できるよう提案する。その際他職種からの意見や経済的負担も加味するよう努めている	本人の能力をかんがみて、今後の視点も考えた中で本人と家族にとって必要なサービスが、今であれば現状で一番望ましいサービスを提供できるよう提案する。その際他職種からの意見や経済的負担も加味するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を自分と同じ価値ある人間として尊重し、利用者とともにある姿勢を持って支援するよう努めている。利用者の心身の特徴を理解し、ペースを合わせながら、共に共感し理解し合いながら協力し暮らしを共にしている。	利用者を自分と同じ価値ある人間として尊重し、利用者とともにある姿勢を持って支援するよう努めている。利用者の心身の特徴を理解し、ペースを合わせながら、共に共感し理解し合いながら協力し暮らしを共にしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム「笑がお」

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護のみの関係ではなく、疑似家族として「笑がお」の思いを理解しており、職員も家族もそれぞれの役割を持った支援者であり、どちらが欠けても本人らしい暮らしは出来ないことを職員は肝に銘じ、家族の役割の尊さを理解している	介護のみの関係ではなく、疑似家族として「笑がお」の思いを理解しており、職員も家族もそれぞれの役割を持った支援者であり、どちらが欠けても本人らしい暮らしは出来ないことを職員は肝に銘じ、家族の役割の尊さを理解している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴、人生を振り返る中で、その関係が出来るだけ長く維持できるよう努めている。たとえばお茶やお花の教室への参加、弟子や在宅時代の近所、友人との付き合い、思い出の地へのお出掛けなど内外において支援している	本人の生活歴、人生を振り返る中で、その関係が出来るだけ長く維持できるよう努めている。たとえばお茶やお花の教室への参加、弟子や在宅時代の近所、友人との付き合い、思い出の地へのお出掛けなど内外において支援している	つき合いのあった地域や近所の人、友人も訪問してくれたり、行きつけの美容院には継続して利用していたり、つながりが途切れないように支援している。利用者の中には茶道や華道の先生がいて、茶道の会への参加ができていたり、生け花教室への参加ができていたこともあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が互いに支え合えるような支援に努めている	個々の性格や病気への理解を持ち、ケアの延長線にお仲間との支え合いがある。その時の気持ちに寄り添い、利用者同士の関係を支援したり、相手への理解が深まるように橋渡しをしながら、孤立せずみんなで支え暮らせるように努めている	個々の性格や病気への理解を持ち、ケアの延長線にお仲間との支え合いがある。その時の気持ちに寄り添い、利用者同士の関係を支援したり、相手への理解が深まるように橋渡しをしながら、孤立せずみんなで支え暮らせるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りの方がほとんどであり、グリーンケアの後もお盆やお手紙、電話など節目で連絡し合ったり、訪問し合える家族との絆がある。終了後もボランティアに来てくれたり、相談事で来たりといつまでも家族としての関係がある	看取りの方がほとんどであり、グリーンケアの後もお盆やお手紙、電話など節目で連絡し合ったり、訪問し合える家族との絆がある。終了後もボランティアに来てくれたり、相談事で来たりといつまでも家族としての関係がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活を共にする中で本人の言葉を傾聴し、その言葉の奥にある思いを理解し、気づきをもって関わりそれを深めることが出来るようにアセスメントをする。困難な場合は仕草や表情等でくみ取り、本人本位の視点に立ってチームで検討する	生活を共にする中で本人の言葉を傾聴し、その言葉の奥にある思いを理解し、気づきをもって関わりそれを深めることが出来るようにアセスメントをする。困難な場合は仕草や表情等でくみ取り、本人本位の視点に立ってチームで検討する	職員が担当制になっており、日々の暮らしの中で利用者の思いを理解して、趣味を引き出して実践したりしている。本人から伺えない場合は家族の要望を聞くようにし、意向の確認をしている。利用者個々の違いを踏まえながら事業所内での本人の存在を尊重するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「センター方式」のシートを利用して、その方らしさ・その方の安心・心身の力の発揮・馴染みの暮らし生活歴・既往歴や発祥の経緯・社会との関係など多義にわたって情報を把握して、職員間で情報の共有に努めている	「センター方式」のシートを利用して、その方らしさ・その方の安心・心身の力の発揮・馴染みの暮らし生活歴・既往歴や発祥の経緯・社会との関係など多義にわたって情報を把握して、職員間で情報の共有に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人とのコミュニケーションの中で心身状態を把握し、本人の能力を見極め、力が発揮できるようにチームで共有している。特に専門的見地からの意見も聞いて、現状を全人的に把握できるように努めている。	本人とのコミュニケーションの中で心身状態を把握し、本人の能力を見極め、力が発揮できるようにチームで共有している。特に専門的見地からの意見も聞いて、現状を全人的に把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や、心身機能の変化時などに加えて、毎日がモニタリングの現場である。チームが一つになり、課題の解決や新たな課題の発見、ケア結果の評価など、定期的に共有し話し合える職場であり、現状に即したものである	サービス担当者会議や、心身機能の変化時などに加えて、毎日がモニタリングの現場である。チームが一つになり、課題の解決や新たな課題の発見、ケア結果の評価など、定期的に共有し話し合える職場であり、現状に即したものである	生活記録をもとに、モニタリングで評価したものを担当者会議で家族や各関係者と話し合いを行い、課題解決に繋げている。皮膚の状態や、看取りに関しての意見が出されたり、心身全てにおいてその都度の状態を見逃さない現状に即したプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録での日常の様子や細かな変化に加え、考察欄にケアの実践評価や方向性、本人の代弁として意見を誰もが記入し職員間で共有している。新たな気づきの面では、ヒヤリハット気づき報告として共有して即実践できるよう見直している	ケース記録での日常の様子や細かな変化に加え、考察欄にケアの実践評価や方向性、本人の代弁として意見を誰もが記入し職員間で共有している。新たな気づきの面では、ヒヤリハット気づき報告として共有して即実践できるよう見直している		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム「笑がお」	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人を支える上では介護保険の枠だけにとらわれないで、必要と感じた場合には本人・家族の意向や、専門家の助言を踏まえて取り組んでいる。また地域の社会資源、国や県・市の方針に合わせて、柔軟な対応に取り組んでいる	その人を支える上では介護保険の枠だけにとらわれないで、必要と感じた場合には本人・家族の意向や、専門家の助言を踏まえて取り組んでいる。また地域の社会資源、国や県・市の方針に合わせて、柔軟な対応に取り組んでいる	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一人として自治会との関係性も築き、地域の行事や活動への参加もあり把握できている。暮らしの中で散歩や買い物、近所づきあいなど一家として地域に根付いた営みが、利用者の楽しみの支援にも通じている	地域の一人として自治会との関係性も築き、地域の行事や活動への参加もあり把握できている。暮らしの中で散歩や買い物、近所づきあいなど一家として地域に根付いた営みが、利用者の楽しみの支援にも通じている	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看取りを希望する家族に沿って、在宅医療に熱心な医師が全利用者の主治医となっている。通院にはナースが同行日頃の状態を伝えながら、アドバイスを受けている。受診時にはインシデントやケアプランの意見も頂き情報の共有に取り組んでいる	看取りを希望する家族に沿って、在宅医療に熱心な医師が全利用者の主治医となっている。通院にはナースが同行日頃の状態を伝えながら、アドバイスを受けている。受診時にはインシデントやケアプランの意見も頂き情報の共有に取り組んでいる	在宅診療医の定期往診を受けている。専門外来の通院時には事業所看護師が受診介助している。家族の希望があれば同行する時がある。居宅療養管理指導により薬剤師が薬剤の管理を行っている。「甲府在宅医療ネット」を活用し、在宅医療に関する情報交換を行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきはナースである管理者に相談や報告が出来ている。24時間365日ナースと連絡が可能であり、特変時もタイムリーに情報が伝達できることで、適切な医療的見地からのケアが出来ている	日々の気づきはナースである管理者に相談や報告が出来ている。24時間365日ナースと連絡が可能であり、特変時もタイムリーに情報が伝達できることで、適切な医療的見地からのケアが出来ている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との顔が見える関係を築き、面会の機会や面談での情報提供を惜まず、本人にとって早期退院が望ましく、家族の希望があれば、主治医やナース、薬剤師の「笑がお」チームで支えていけるよう、連絡調整を迅速に行えるよう取り組んでいる	病院関係者との顔が見える関係を築き、面会の機会や面談での情報提供を惜まず、本人にとって早期退院が望ましく、家族の希望があれば、主治医やナース、薬剤師の「笑がお」チームで支えていけるよう、連絡調整を迅速に行えるよう取り組んでいる	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の見学・相談時から「笑がお」の方針について説明、入居時は重度化した場合の指針を説明し、終末期の意向を確認している。本人の心身状態の変化や家族の思いに寄り添いながら、地域の関係者と共にチームで最後まで支えられるよう取り組んでいる	入居前の見学・相談時から「笑がお」の方針について説明、入居時は重度化した場合の指針を説明し、終末期の意向を確認している。本人の心身状態の変化や家族の思いに寄り添いながら、地域の関係者と共にチームで最後まで支えられるよう取り組んでいる	看取りに関しては、状態が悪化した時点で家族に終末期の意向を確認しながら、医療関係者と相談し、最後の時を迎える本人・家族への支援は、「笑がお」でできることを精一杯行っている。職員全員と利用者でお見送りをしている。また、看取りを行ってくれるという情報を得て見学に来て、看取りの考え方に同意して入所された利用者もいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な内外の研修や勉強会でナースや医師からの知識や実践方法を学んだり、サービス担当者会議では本人の既往や病態に合わせて、起こりうる予測の対応の知識を共有する場がある。またマニュアルはいつでも手に取り学習する環境にある	定期的な内外の研修や勉強会でナースや医師からの知識や実践方法を学んだり、サービス担当者会議では本人の既往や病態に合わせて、起こりうる予測の対応の知識を共有する場がある。またマニュアルはいつでも手に取り学習する環境にある	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策計画を作成し、施設内研修で全職員に周知しマニュアルとして提示している。運営推進会議で地域の委員の方と共に情報の共有をして、協力体制やアドバイスをもらっている。また地域の防災訓練やホーム内の避難訓練を実践している	非常災害対策計画を作成し、施設内研修で全職員に周知しマニュアルとして提示している。運営推進会議で地域の委員の方と共に情報の共有をして、協力体制やアドバイスをもらっている。また地域の防災訓練やホーム内の避難訓練を実践している	事業所はマニュアル・連絡網を作成し、年2回昼夜の防災訓練を行っている。事業所が危険災害警戒区域にあるため、運営推進会議で防災計画を提示し、地域の委員の方との連携体制が整っている。また、地域の防災士の研修を受け訓練に繋げている。他に消防点検を受け、ホーム内避難誘導訓練を実施。備蓄品・ヘルメットも完備しており、避難場所も決められている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての尊厳を守り、人生の先輩として接する中で、個々の今までの人生観や性格に合わせて、本人が安心したり、満足できる言葉かけや対応を、職員間で情報の共有をして、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している	年長者としての尊厳を守り、人生の先輩として接する中で、個々の今までの人生観や性格に合わせて、本人が安心したり、満足できる言葉かけや対応を、職員間で情報の共有をして、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している	入居者へのプライドを傷つけない言葉使い、方言の使い方に注意し、視線を合わせた対話、傾聴に心掛けていく。トイレへの誘導の際もさりげなく行うように気配りをしている。個人情報については、事務所内で外部に知られないように管理している。

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム「笑がお」

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションは欠かすことなく、思いが表出できるように時間をかけて寄り添うことで、思いや希望を聞きだし、可能な限り実現できるよう、職員間で情報を共有して、担当者会議で話し合い、本人本位で行動できるように取り組んでいる	日頃のコミュニケーションは欠かすことなく、思いが表出できるように時間をかけて寄り添うことで、思いや希望を聞きだし、可能な限り実現できるよう、職員間で情報を共有して、担当者会議で話し合い、本人本位で行動できるように取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症の重度化により、希望を表出する方は限られるが、生活歴から望むであろうドライブや買い物、近所への散歩、食材切り、調理など、その日によって様々な展開しながら笑顔を引き出している	認知症の重度化により、希望を表出する方は限られるが、生活歴から望むであろうドライブや買い物、近所への散歩、食材切り、調理など、その日によって様々な展開しながら笑顔を引き出している		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	起床時の洋服と一緒に選んで、着替えの援助をしたり、朝食後にはお化粧をされる方のお手伝いをしたり、お出かけ前には身だしなみを一緒に整えたりと、それぞれの希望に応じておしやれを支援している	起床時の洋服と一緒に選んで、着替えの援助をしたり、朝食後にはお化粧をされる方のお手伝いをしたり、お出かけ前には身だしなみを一緒に整えたりと、それぞれの希望に応じておしやれを支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事や「笑がお」独自の行事の中に、家族と食事を楽しむ会、外食、ピクニック、忘年会、流しソーメン、新年会、ほうとう作り、恵方巻き等食事を中心とした行事が多く、全ての場面で利用者が中心となり一緒に準備や片付けをしている	季節の行事や「笑がお」独自の行事の中に、家族と食事を楽しむ会、外食、ピクニック、忘年会、流しソーメン、新年会、ほうとう作り、恵方巻き等食事を中心とした行事が多く、全ての場面で利用者が中心となり一緒に準備や片付けをしている	食事は職員と一緒にっており、配膳、下膳、食器洗いを利用者もやっている。献立は2ユニット同じであるが、調理はそれぞれ行っている。季節の行事食(正月他)や外食に出掛ける時は家族を招待し、利用者・他の家族との交流・楽しみの機会を作っている。利用者は買い物にも参加し、それぞれ役割を持つことで、出来る事の発揮に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の飲食量をチェックし、少ない方は嗜好品も取り入れながら、バランスよく摂取できるように促している。個別の運動量も把握してアプローチしている。重度化している方はカロリー計算をしながら、食べやすい形態に考慮している	毎日の飲食量をチェックし、少ない方は嗜好品も取り入れながら、バランスよく摂取できるように促している。個別の運動量も把握してアプローチしている。重度化している方はカロリー計算をしながら、食べやすい形態に考慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別の能力に応じて介入し、磨き残しの無いように介助や見守りを行っている。毎週、居宅療養管理指導にて歯科医や歯科衛生士により口腔内チェックを受け、必要に応じて指導を受けながら、口腔内の清潔保持に努めている	毎食後、個別の能力に応じて介入し、磨き残しの無いように介助や見守りを行っている。毎週、居宅療養管理指導にて歯科医や歯科衛生士により口腔内チェックを受け、必要に応じて指導を受けながら、口腔内の清潔保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時より尿意・便意の確認や排泄パターンを職員間で共有して、個別の習慣を活かしてトイレ誘導をしている。特に排便は習慣性を身につけ、トイレでのスムーズな排便が出来るよう、腹部マッサージや食材の工夫をして自然排便を心掛けている	入居時より尿意・便意の確認や排泄パターンを職員間で共有して、個別の習慣を活かしてトイレ誘導をしている。特に排便は習慣性を身につけ、トイレでのスムーズな排便が出来るよう、腹部マッサージや食材の工夫をして自然排便を心掛けている	排泄には自然排泄を基本としているので、排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。また、マッサージを施行したり、食事の内容に気を使い、下剤の服用よりは、整腸剤を服用するようにしている。利用者の多くはリハビリパンツを使用し、失禁予防にパッドを使用している。誘導が上手く出来ていることで、リハビリパンツの使用量が減ってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態や水分量、運動量等要因は様々で、便秘症の方は多いが、食材の工夫や屋外活動、百歳体操など、両輪で取り組んでいる。頑固な便秘の方は医師と相談をして整腸剤の服用もしている	食事形態や水分量、運動量等要因は様々で、便秘症の方は多いが、食材の工夫や屋外活動、百歳体操など、両輪で取り組んでいる。頑固な便秘の方は医師と相談をして整腸剤の服用もしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、ご本人の希望に沿っているが、重度化により入浴を希望しない方もいる中、寝たきりの方々は身体の負担を考え週1回の方、清拭のみの方などレベルに応じて個々に沿っている。タイミングに合わせて柔軟に対応している	基本的には、ご本人の希望に沿っているが、重度化により入浴を希望しない方もいる中、寝たきりの方々は身体の負担を考え週1回の方、清拭のみの方などレベルに応じて個々に沿っている。タイミングに合わせて柔軟に対応している	入居者の希望により毎日であったり、週1回であったり入浴の回数は違っている。状態によっても入浴の方法が違う。なるべく、日中(午後)の暖かい時間帯に入浴するように個々それぞれに工夫している。入浴剤等は事業所で用意している。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム「笑がお」	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]		
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムの構築に加え、個々の身体状況や生活歴、習慣や性格などを把握し、その方のペースに沿った安眠と休息の支援をしている。環境ではソファやベッドの向き、寝具や安心する小物やクッションなど馴染んだものを多く使用している	生活リズムの構築に加え、個々の身体状況や生活歴、習慣や性格などを把握し、その方のペースに沿った安眠と休息の支援をしている。環境ではソファやベッドの向き、寝具や安心する小物やクッションなど馴染んだものを多く使用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時に内服の確認をすると同時に、医師・居宅療養管理指導の薬剤師・ナースと連携して、薬の目的・副作用・用法・用量について全職員に担当者会議で周知し、薬の説明書がカルテに添付してある。毎週薬剤師に薬の相談をして理解している	入居時に内服の確認をすると同時に、医師・居宅療養管理指導の薬剤師・ナースと連携して、薬の目的・副作用・用法・用量について全職員に担当者会議で周知し、薬の説明書がカルテに添付してある。毎週薬剤師に薬の相談をして理解している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方らしさが伝わるアセスメントシートを用いて人生観、生活歴、楽しみ事、趣味、嗜好品、行きたい所、会いたい人等知り得る情報を基に役割を見出しホーム内外にとらわれず、多義にわたって支援している	その方らしさが伝わるアセスメントシートを用いて人生観、生活歴、楽しみ事、趣味、嗜好品、行きたい所、会いたい人等知り得る情報を基に役割を見出しホーム内外にとらわれず、多義にわたって支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々のレベルによるが、日常的に屋外に出掛けていて、近隣の散歩、地域の祭り、運動会、文化祭への参加、花見、外食、買い物など地域の協力のもと楽しみ事はたくさんある。ご家族と連れ立ってのお出掛けもあり、外食やお墓参り、家への外泊、馴染みの美容院等家族の協力も大きい	個々のレベルによるが、日常的に屋外に出掛けていて、近隣の散歩、地域の祭り、運動会、文化祭への参加、花見、外食、買い物など地域の協力のもと楽しみ事はたくさんある。ご家族と連れ立ってのお出掛けもあり、外食やお墓参り、家への外泊、馴染みの美容院等家族の協力も大きい	日常的に近くの寺や近隣に散歩に出たり、職員が見守り、より近いながら、本人の自由に外に出ている。年に数回は観光地等や外食へ行くこともあり、家族が外出や墓参りに連れていくこともある。地域のお祭りに出掛ける時には、地域の方々が地ならしをして、歩きやすいように配慮してくれるので助かっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域のスーパーや直売所での支払い、本やで愛読書の購入、お祭りで屋台の買い物などそれぞれ財布から買う時もある。外出先でおまんじゅうを買ったり、のどが渇いて飲み物を買う等外出時に支援している	地域のスーパーや直売所での支払い、本やで愛読書の購入、お祭りで屋台の買い物などそれぞれ財布から買う時もある。外出先でおまんじゅうを買ったり、のどが渇いて飲み物を買う等外出時に支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在自ら電話を掛けるといったニーズはないが、遠方からの家族の電話やお友達からの電話で話す場面はある。また手紙のやり取りができる様、職員が丁寧に、本人の思いが書けるようお手伝いしている	現在自ら電話を掛けるといったニーズはないが、遠方からの家族の電話やお友達からの電話で話す場面はある。また手紙のやり取りができる様、職員が丁寧に、本人の思いが書けるようお手伝いしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は、より家庭的な温かみのある色合いや置物を心掛け、多くの写真や季節のお花、観葉植物、テーブルクロスなど居心地の良い空間にしている。居間では「美しい日本の歌」などのメロディーを流し、窓から富士山や山が一望出来て、風通しも良く季節感を味わえている	共同の空間は、より家庭的な温かみのある色合いや置物を心掛け、多くの写真や季節のお花、観葉植物、テーブルクロスなど居心地の良い空間にしている。居間では「美しい日本の歌」などのメロディーを流し、窓から富士山や山が一望出来て、風通しも良く季節感を味わえている	玄関には「笑がお」に擬えた書画が展示しており、目を引く。フロアーに向かう両壁にも家族と撮った写真が一面にあり、要所に日頃の生活が伺える。入居されて書家が書いた大きな書道作品は階段の壁面とフロアにもあり、展示場のような。明るいフロアは風光明媚で入居者が和みやすい空間となっている。蘭や観葉植物も好印象である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常の大半を過ごす居間だけでなく、玄関先や事務所、ホール、廊下等にくつろげる空間があり、気の合った仲間同士でお茶をしたり、日向ぼっこをしたり、読書をしたりと思い思いに過ごせる場所がある	日常の大半を過ごす居間だけでなく、玄関先や事務所、ホール、廊下等にくつろげる空間があり、気の合った仲間同士でお茶をしたり、日向ぼっこをしたり、読書をしたりと思い思いに過ごせる場所がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	表札は手作りでありやすく、馴染んだタンズ、仏壇や遺影、趣味の作品や装飾品などの愛着ある小物、お気に入りの洋服、使い慣れた寝具など、家族と相談しながら在宅時とあまり変わらない馴染みの品で空間づくりを手掛けている	表札は手作りでありやすく、馴染んだタンズ、仏壇や遺影、趣味の作品や装飾品などの愛着ある小物、お気に入りの洋服、使い慣れた寝具など、家族と相談しながら在宅時とあまり変わらない馴染みの品で空間づくりを手掛けている	居室の設置物は、エアコン、カーテン以外はすべて入居者が持参したものである。特殊寝台や調度品全て本人が使い易く置いてあり、それぞれ工夫した居室になっている。持参したハンガーラックには衣類が吊るしており、利用者がその日の服を自分で選択し、着用できるように配慮してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存機能に沿ってオープンスペースの台所やトイレの案内、洗面所の使い勝手、物干し場の手すり設置など、自発的に役割が果たせるようにし朝のミーティングや担当者会議で共有して、日々利用者と協働するよう工夫している	個々の残存機能に沿ってオープンスペースの台所やトイレの案内、洗面所の使い勝手、物干し場の手すり設置など、自発的に役割が果たせるようにし朝のミーティングや担当者会議で共有して、日々利用者と協働するよう工夫している		